

円建グローバル公社債ファンド

愛称：円咲

運用報告書（全体版）

第1期（決算日 2022年3月18日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。
「円建グローバル公社債ファンド」は、2022年3月18日に第1期の決算を行いましたので、期中の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2021年4月23日から無期限です。
運用方針	国内外の法人が発行する円建社債および国内外の円建公債を実質的な主要投資対象とし、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	RM円建グローバル公社債マザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）の受益証券を主要投資対象とします。
主な投資制限	①株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ②投資信託証券（マザーファンド受益証券および上場投資信託証券を除きます。）への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。 ③外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎決算時に、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等を分配対象額とし、原則として基準価額の水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

<照会先>

電話番号：0120-223351

（委託会社の営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ： <https://www.resona-am.co.jp/>

りそなアセットマネジメント 株式会社

東京都江東区木場1丁目5番65号

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決算期	基準 (分配落)	価額			債 組 入 比	券 率	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 金 騰 落			
(設定日)	円		円		%		百万円
2021年4月23日	10,000		—		—	—	1,001
1期(2022年3月18日)	9,973		0	△0.3	95.6		2,102

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額（元本＝10,000円）です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		債 組 入 比	券 率
		騰 落	率		
(設定日)	円		%		%
2021年4月23日	10,000		—		—
4月末	9,960		△0.4		71.1
5月末	9,977		△0.2		81.3
6月末	10,003		0.0		91.3
7月末	10,021		0.2		91.3
8月末	10,028		0.3		91.2
9月末	10,014		0.1		91.2
10月末	10,014		0.1		89.8
11月末	10,038		0.4		89.2
12月末	10,033		0.3		95.5
2022年1月末	10,008		0.1		94.2
2月末	9,989		△0.1		93.1
(期 末)					
2022年3月18日	9,973		△0.3		95.6

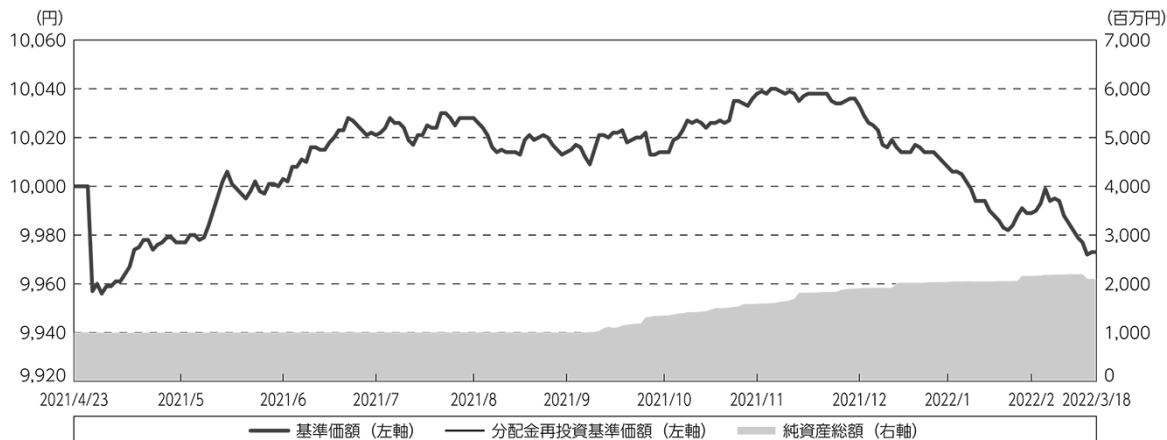
(注) 騰落率は設定日比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

(2021年4月23日～2022年3月18日)

期中の基準価額等の推移



設定時：10,000円

期 末：9,973円 (既払分配金(税引前)：0円)

騰落率：△ 0.3% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

マザーファンドを通じて投資を行った結果、当ファンドの基準価額は設定時10,000円から当期末9,973円となり、27円の値下がりとなりました。

投資債券から得られた利息等収益がプラスに寄与した一方、国内長期金利の上昇に加え、信託報酬などの諸費用が主なマイナス要因となり、基準価額は値下がりしました。

投資環境

国内債券市況

国内の長期金利は、設定時と比較して上昇（債券価格は下落）しました。期前半は、緊急事態宣言の発令など新型コロナウイルス感染抑制策の再導入による景気回復の後ずれ懸念の高まりなどから長期金利は低下基調で推移しました。期後半は、主要国中央銀行の金融政策正常化の前倒し観測が強まり、長期金利は日銀による変動許容幅の上限である0.25%近辺まで上昇が進む場面が見られました。期末にかけては、ウクライナ危機を受けたリスク回避の動きも加わり、債券市場は変動率の大きい展開となりました。

国内クレジット・スプレッド（信用格付に応じた利回り格差、国債利回りとの差）については、旺盛な投資家需要や日銀による社債買入オペなどを背景として安定的に推移していましたが、期後半以降、米国のインフレ懸念の高進、ウクライナ危機の勃発により世界的にリスク回避の動きが広がり、国内クレジット・スプレッドは拡大しました。

当ファンドのポートフォリオ

当ファンド

RM円建グローバル公社債マザーファンド受益証券を高位に組入れて運用を行いました。

RM円建グローバル公社債マザーファンド

残存期間が10年程度までの国内外の円建公社債に投資し、各残存期間の投資金額が同程度となるように運用を行いました。

当期においては（普通）社債および劣後債を発行体・償還年限の分散に留意して組み入れ、ラダーポートフォリオを構築することにより、金利変動に対するリスク分散効果や、利息収入の平準化を図り、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長を目指して運用を行いました。当期においては国内クレジット・スプレッドから見た投資妙味から、劣後債に注目した組み入れを行いました。

ポートフォリオの平均残存年数^{*1}は期を通じて5年から6年程度を維持しました。期末の平均格付^{*2}は「A格」となりました。

* 1 個別銘柄の組入比率で加重平均した値です。繰上償還条項が付与されている銘柄は、最初の繰上償還可能日を基準に算出しています。

* 2 Moody's、S&P、R&I、JCR 4社のうち、一番高い格付を採用しています。格付の表記はS&Pに準拠しています。

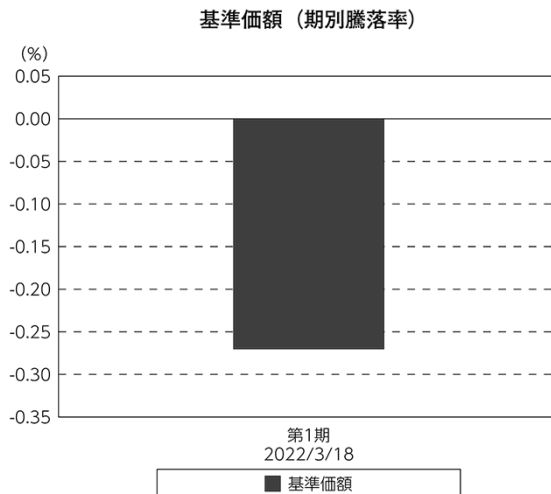
債券種別構成比率

種別	（普通）社債	劣後債	国債	その他
組入比率	23.8%	71.9%	—	—

（注）組入比率は純資産総額比です。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は設定していません。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

分配金

当期の収益分配金につきましては、基準価額の水準、市況動向等を勘案した上で、分配を見送りとさせていただきます。収益分配にあてなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第1期
	2021年4月23日～ 2022年3月18日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	35

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

当ファンド

引き続き、RM円建グローバル公社債マザーファンド受益証券を高位に組入れて運用を行う方針です。

RM円建グローバル公社債マザーファンド

引き続き、残存期間が10年程度までの国内外の円建公社債に投資し、各残存期間の投資金額が同程度となるように運用を行います。

ウクライナ危機の情勢は流動的であり、社債市場における投資家心理は変化しやすい展開が続くものと考えられます。加えて米国ではインフレリスクの高まりから政策金利の順次引き上げが予定されています。これらを受けた投資環境の変化に留意しつつ、当ファンド運営においては円建ての社債および公債を発行体・償還年限の分散に留意して組み入れ、ラダーポートフォリオを構築・維持する方針です。組み入れている個別債券の返済可能性を随時点検するとともに、事業基盤や財務基盤の頑健性、資金調達力などで懸念の少ない企業が発行する債券を選別の上、組み入れる方針です。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2021年4月23日～2022年3月18日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 30	% 0.298	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(12)	(0.119)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(15)	(0.149)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(3)	(0.030)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.008	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.008)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	その他は、ファンドの運営管理にかかる費用等
合 計	31	0.306	
期中の平均基準価額は、10,007円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

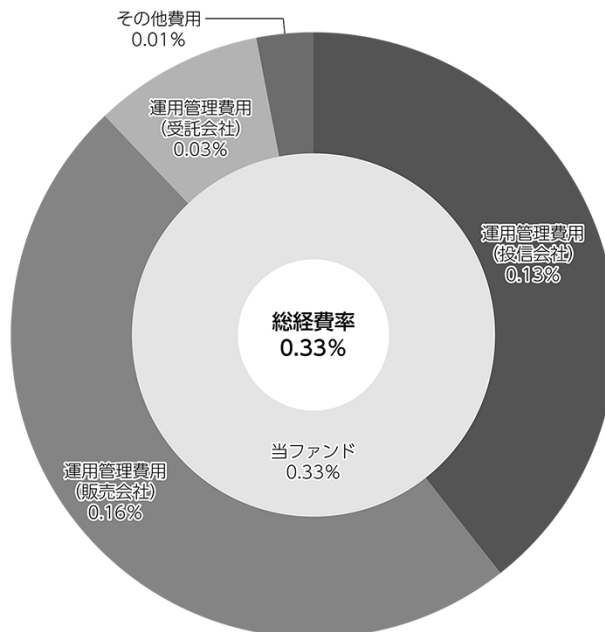
(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.33%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2021年4月23日～2022年3月18日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘	柄	設 定		解 約	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
RM円建グローバル公社債マザーファンド		2, 226, 246	2, 231, 488	126, 367	126, 513

○利害関係人との取引状況等

(2021年4月23日～2022年3月18日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年4月23日～2022年3月18日)

該当事項はございません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2021年4月23日～2022年3月18日)

設定時残高 (元本)	当期設定 元本	当期解約 元本	期末残高 (元本)	取 引 理 由
百万円 1	百万円 —	百万円 —	百万円 1	当初設定時における取得

○組入資産の明細

(2022年3月18日現在)

親投資信託残高

銘	柄	当 期 末	
		口 数	評 価 額
		千口	千円
RM円建グローバル公社債マザーファンド		2,099,878	2,100,718

○投資信託財産の構成

(2022年3月18日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
RM円建グローバル公社債マザーファンド	千円 2,100,718	% 95.3
コール・ローン等、その他	103,702	4.7
投資信託財産総額	2,204,420	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○特定資産の価格等の調査

(2021年4月23日～2022年3月18日)

該当事項はございません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年3月18日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,204,420,098
コール・ローン等	8,920,481
RM円建グローバル公社債マザーファンド(評価額)	2,100,718,617
未収入金	94,781,000
(B) 負債	102,269,610
未払解約金	99,779,899
未払信託報酬	2,426,664
未払利息	24
その他未払費用	63,023
(C) 純資産総額(A-B)	2,102,150,488
元本	2,107,796,787
次期繰越損益金	△ 5,646,299
(D) 受益権総口数	2,107,796,787口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,973円

(注) 当ファンドの設定時元本額は1,001,000,000円、期中追加設定元本額は1,249,024,576円、期中一部解約元本額は142,227,789円です。

(注) 当期末の1口当たり純資産額は0.9973円です。

(注) 2022年3月18日現在、純資産総額は元本額を下回っており、その差額は5,646,299円です。

○損益の状況 (2021年4月23日～2022年3月18日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 1,605
支払利息	△ 1,605
(B) 有価証券売買損益	△ 3,953,251
売買益	152,606
売買損	△ 4,105,857
(C) 信託報酬等	△ 4,192,722
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 8,147,578
(E) 追加信託差損益金	2,501,279
(配当等相当額)	(△ 924)
(売買損益相当額)	(2,502,203)
(F) 計(D+E)	△ 5,646,299
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	△ 5,646,299
追加信託差損益金	2,501,279
(配当等相当額)	(786,429)
(売買損益相当額)	(1,714,850)
分配準備積立金	6,642,970
繰越損益金	△14,790,548

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(6,642,970円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、および信託約款に規定する収益調整金(786,429円)より分配対象収益は7,429,399円(1万口当たり35円)ですが、当期に分配した金額はありません。

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金(税込み)	0円
----------------	----

○お知らせ

該当事項はございません。

RM円建グローバル公社債マザーファンド

運用報告書

第1期（決算日 2022年3月18日）
（2021年4月23日～2022年3月18日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2021年4月23日から無期限です。
運用方針	①主として、国内外の法人が発行する円建社債*および国内外の円建公債に投資し、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。 *劣後債等を含みます。 ②原則として、投資する債券は、取得時において投資適格相当の格付を取得している債券を投資対象とします。 ③残存期間が10年程度までの国内外の円建公社債を、各残存期間の投資金額がほぼ同程度となるように組み入れたポートフォリオの構成を目指します。 ④債券の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。
主要投資対象	・円建の投資適格債券および国内の国債
主な投資制限	・株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。 ・外貨建資産への投資は行いません。

りそなアセットマネジメント 株式会社

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額	騰 落 中 率		債 組 入 比 率	純 資 産 額
		騰	落		
(設定日)	円		%	%	百万円
2021年4月23日	10,000		—	—	1,000
1期(2022年3月18日)	10,004		0.0	95.6	2,100

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額（元本=10,000円）です。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 中 率		債 組 入 比 率	券 率
		騰	落		
(設定日)	円		%		%
2021年4月23日	10,000		—		—
4月末	9,961		△0.4		71.2
5月末	9,980		△0.2		81.4
6月末	10,009		0.1		91.4
7月末	10,030		0.3		91.3
8月末	10,040		0.4		91.3
9月末	10,029		0.3		91.2
10月末	10,032		0.3		89.9
11月末	10,059		0.6		89.3
12月末	10,057		0.6		95.5
2022年1月末	10,034		0.3		94.2
2月末	10,018		0.2		93.2
(期 末)					
2022年3月18日	10,004		0.0		95.6

(注) 騰落率は設定日比です。

○運用経過

(2021年4月23日～2022年3月18日)

期中の基準価額等の推移

○基準価額の変動要因

基準価額は設定時10,000円から当期末10,004円となり、4円の値上がりとなりました。

国内長期金利の上昇がマイナスに作用した一方、投資債券から得られた利息等収益が主なプラス要因となり、基準価額は小幅に値上がりしました。



投資環境

国内債券市況

国内の長期金利は、設定時と比較して上昇（債券価格は下落）しました。期前半は、緊急事態宣言の発令など新型コロナウイルス感染抑制策の再導入による景気回復の後ずれ懸念の高まりなどから長期金利は低下基調で推移しました。期後半は、主要国中央銀行の金融政策正常化の前倒し観測が強まり、長期金利は日銀による変動許容幅の上限である0.25%近辺まで上昇が進む場面が見られました。期末にかけては、ウクライナ危機を受けたリスク回避の動きも加わり、債券市場は変動率の大きい展開となりました。

国内クレジット・スプレッド（信用格付に応じた利回り格差、国債利回りとの差）については、旺盛な投資家需要や日銀による社債買入オペなどを背景として安定的に推移していましたが、期後半以降、米国のインフレ懸念の高進、ウクライナ危機の勃発により世界的にリスク回避の動きが広がり、国内クレジット・スプレッドは拡大しました。

当ファンドのポートフォリオ

残存期間が10年程度までの国内外の円建公社債に投資し、各残存期間の投資金額が同程度となるように運用を行いました。

当期においては（普通）社債および劣後債を発行体・償還年限の分散に留意して組み入れ、ラダーポートフォリオを構築することにより、金利変動に対するリスク分散効果や、利息収入の平準化を図り、安定した収益の確保および信託財産の着実な成長を目指して運用を行いました。当期においては国内クレジット・スプレッドから見た投資妙味から、劣後債に注目した組み入れを行いました。

ポートフォリオの平均残存年数*1は期を通じて5年から6年程度を維持しました。期末の平均格付*2は「A格」となりました。

*1 個別銘柄の組入比率で加重平均した値です。繰上償還条項が付与されている銘柄は、最初の繰上償還可能日を基準に算出しています。

*2 Moody's、S&P、R&I、JCR 4社のうち、一番高い格付を採用しています。格付の表記はS&Pに準拠しています。

債券種別構成比率

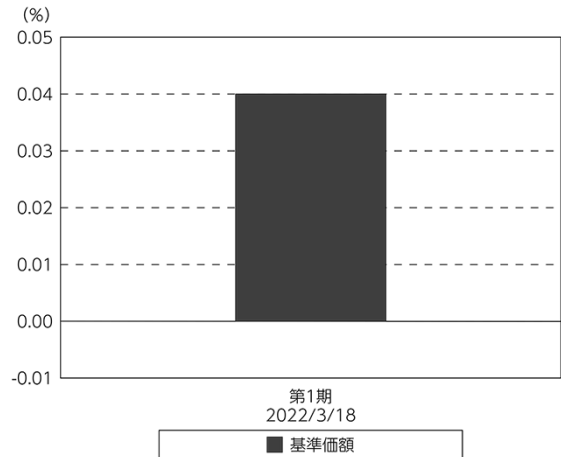
種別	(普通)社債	劣後債	国債	その他
組入比率	23.8%	71.9%	—	—

(注) 組入比率は純資産総額比です。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は設定しておりません。

基準価額（期別騰落率）



○今後の運用方針

引き続き、残存期間が10年程度までの国内外の円建公社債に投資し、各残存期間の投資金額が同程度となるように運用を行います。

ウクライナ危機の情勢は流動的であり、社債市場における投資家心理は変化しやすい展開が続くものと考えられます。加えて米国ではインフレリスクの高まりから政策金利の順次引き上げが予定されています。これらを受けた投資環境の変化に留意しつつ、当ファンド運営においては円建ての社債および公債を発行体・償還年限の分散に留意して組み入れ、ラダーポートフォリオを構築・維持する方針です。組み入れている個別債券の返済可能性を随時点検するとともに、事業基盤や財務基盤の頑健性、資金調達力などで懸念の少ない企業が発行する債券を選別の上、組み入れる方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2021年4月23日～2022年3月18日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	円 0 (0)	% 0.000 (0.000)	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、ファンドの運営管理にかかる費用等
合 計	0	0.000	
期中の平均基準価額は、10,022円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2021年4月23日～2022年3月18日)

公社債

		買 付 額	売 付 額
		千円	千円
国	国債証券	202,040	202,107
内	社債券（投資法人債券を含む）	2,326,368	302,041

(注) 金額は受け渡し代金。（経過利子分は含まれておりません。）

(注) 社債券（投資法人債券を含む）には新株予約権付社債（転換社債）は含まれておりません。

○利害関係人との取引状況等

(2021年4月23日～2022年3月18日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年4月23日～2022年3月18日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2022年3月18日現在)

国内公社債

(A) 国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期			末			
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちB B格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
普通社債券 (含む投資法人債券)	2,000,000 (2,000,000)	2,009,127 (2,009,127)	95.6 (95.6)	— (—)	81.4 (81.4)	9.5 (9.5)	4.8 (4.8)
合 計	2,000,000 (2,000,000)	2,009,127 (2,009,127)	95.6 (95.6)	— (—)	81.4 (81.4)	9.5 (9.5)	4.8 (4.8)

(注) 普通社債券は劣後債を含みます。

(注) ()内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 格付のない債券については、B B格以下組入比率に含まれておりません。

(B) 国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期			末	
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	額	償 還 年 月 日
普通社債券(含む投資法人債券)	%	千円	千円		
第3回関西電力株式会社利払繰延条項・期限前償還条項付無担保社債	1.259	100,000	99,841	2082/3/20	
第1回朝日生命保険相互株式会社利払繰延条項・期限前償還条項付	1.5	100,000	100,219	2057/2/10	
第1回野村不動産ホールディングス株式会社利払繰延条項・期限前	1.3	100,000	102,257	2058/3/13	
第1回武田薬品工業株式会社利払繰延条項・期限前償還条項付無担	1.72	100,000	102,516	2079/6/6	
第3回日本製鉄株式会社(劣後特約付)	1.24	100,000	102,615	2079/9/12	
第1回ジェイ エフ イー ホールディングス株式会社(劣後)	0.68	100,000	99,549	2081/6/10	
第2回パナソニック株式会社利払繰延条項・期限前償還条項付無担	0.885	100,000	99,268	2081/10/14	
第5回楽天カード株式会社無担保社債	0.3	100,000	99,118	2024/12/17	
第1回日本生命第6回劣後ローン流動化株式会社利払繰延条項・期	0.97	100,000	100,368	2051/5/11	
第1回丸紅株式会社利払繰延条項・期限前償還条項付無担保社債	0.82	100,000	100,145	2081/3/4	
第10回株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ期限前償還	0.82	100,000	100,317	—	
第5回株式会社三井住友フィナンシャルグループ無担保社債(劣後)	1.29	100,000	102,615	—	
第12回株式会社みずほフィナンシャルグループ無担保社債(劣後)	0.937	100,000	99,850	—	
第25回SBIホールディングス株式会社無担保社債	0.6	100,000	99,685	2024/7/26	
第1回三菱HCキャピタル株式会社利払繰延条項・期限前償還条項	0.63	100,000	100,270	2081/9/27	
第4回第一生命ホールディングス株式会社利払繰延条項・任意償還	0.9	100,000	99,000	—	
第1回九州電力株式会社(劣後特約付)	0.99	100,000	100,935	2080/10/15	
第15回東京電力パワーグリッド株式会社社債	0.89	100,000	101,251	2030/7/24	
第48回ソフトバンクグループ株式会社無担保社債	2.13	100,000	100,577	2022/12/9	
第9回ビー・ピー・シー・イー・エス・エー期限前償還条項付円貨	1.1	100,000	98,731	2031/12/16	
合 計		2,000,000	2,009,127		

(注) 償還年月日が—とあるのは永久債です。

○投資信託財産の構成

(2022年3月18日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	2,009,127	91.5
コール・ローン等、その他	186,333	8.5
投資信託財産総額	2,195,460	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

○特定資産の価格等の調査

(2021年4月23日～2022年3月18日)

該当事項はございません。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年3月18日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	2,195,460,877
コール・ローン等	181,621,543
公社債(評価額)	2,009,127,600
未収利息	4,275,324
前払費用	436,410
(B) 負債	94,781,492
未払解約金	94,781,000
未払利息	492
(C) 純資産総額(A-B)	2,100,679,385
元本	2,099,878,666
次期繰越損益金	800,719
(D) 受益権総口数	2,099,878,666口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,004円

(注) 当ファンドの設定時元本額は1,000,200,000円、期中追加設定元本額は1,226,046,245円、期中一部解約元本額は126,367,579円です。

(注) 2022年3月18日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・円建グローバル公社債ファンド	2,099,878,666円
-----------------	----------------

(注) 当期末の1口当たり純資産額は1.0004円です。

○損益の状況 (2021年4月23日～2022年3月18日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	10,837,297
受取利息	10,987,736
支払利息	△ 150,439
(B) 有価証券売買損益	△15,132,400
売買益	878,000
売買損	△16,010,400
(C) 保管費用等	△ 512
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 4,295,615
(E) 追加信託差損益金	5,241,755
(F) 解約差損益金	△ 145,421
(G) 計(D+E+F)	800,719
次期繰越損益金(G)	800,719

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

該当事項はございません。